

学校概要（平成15年4月現在）

石橋町立石橋小学校										
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数	
学級数	3	3	3	3	3	3	2	20		
児童数	98	99	118	89	115	95	7	621	27	

実践研究の概要

1. 研究主題

「わかる・できる」喜びや楽しさを実感できる学びの創造  
 ——基礎学力の向上を図り，学ぶ力を育てる学習指導の工夫——

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

1～6年生 国語，算数

（昨年度までの研究を生かし，児童一人一人が基礎学力を十分に身に付け，自ら意欲的に学習に取り組み，確かな学力の向上を図れるように，更に研究を進めることにした。）

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ                  基礎学力の向上を図り，学ぶ力を育てる学習指導の工夫                  - 国語科と算数科を通して（第1年次） -</p> <p>仮説                  （仮説1）児童の実態（学力，関心・意欲など）をきちんと把握・分析し，その実態や学習状況に応じて指導体制や指導方法，授業形態を工夫したり，評価規準と指導の手だてを作成したりして，個に応じた指導を工夫していけば，読み・書き・計算などを含めた基礎・基本の内容がより確かに定着し，基礎学力が向上するであろう。                  （仮説2）教育課程を見直し，時間割を工夫したり朝や放課後の時間に補充的な時間を位置づけたりして，学校教育全体で系統的，継続的に取り組み，学びの機会を充実させていけば，学びへの意欲や学ぶ習慣が身に付き，基礎学力が向上するであろう。</p> <p>研究内容・方法                  ア 基礎学力の向上を図るための指導方法の工夫と教育課程の改善                  ・ 算数科を中心に，少人数指導・習熟度別学習など個に応じた指導を行う。                  ・ 「読み，書き，計算」を含めて，学習指導要領のねらいが達成できるような指導の在り方を研究する。                  ・ 教育課程を見直し，朝の活動や1単位時間の弾力化，週時程の工夫を行う。                  ・ 国語，算数科で一人1授業（公開）を実施し，指導法の工夫や改善を図る。                  ・ 確かな学力を向上させるための指導法や評価などについて学ぶ研修の機会を持つ。                  ・ 無理のない範囲で，教師の得意分野を生かした交換授業や教科担任制を取り入れる。</p> イ 個に応じた指導の工夫 ・ 国語・算数科を中心に，発展的な学習や補充的な学習で生かせる教材を開発する。 ・ 指導計画と評価規準の一体化を図り，「指導の手だて」を明確にする。                 ウ 学習意欲を高める指導の工夫 ・ 年間指導計画を見直し，評価規準や具体の評価規準を設定する。 ・ 指導に生きる多様な評価方法について検討する。 ・ 総合的な学習の時間と関連させ，教科学習での体験活動を重視する。 ・ 調べ学習や教科の学習の中で，情報機器を効果的に活用する。 ・ 問題解決学習での討論と発表を活性化できるようにする。
--------	---

**エ 学ぶ習慣を身に付けさせるための指導の工夫**

- ・ 放課後の時間などを活用した補足的な学習を行う。
- ・ 朝の活動時に音読や読書，計算練習などを推奨・支援する。
- ・ 学年に応じた「学習のきまり」(ノート指導なども含めて)を検討する。
- ・ 学ぶ習慣が身に付くような家庭学習などの充実を図る。

**オ 家庭や地域との連携を図る工夫**

- ・ 学校だより・学年だより・フロンティア通信等を活用した連絡を行う。
- ・ 授業参観や懇談会を活用しての紹介を行う。
- ・ ホームページで研究や活動の様子を公開する。
- ・ 地域の人材を中心とした外部人材の活用を図る。

平成  
15  
年  
度

テーマ

「わかる・できる」喜びや楽しさを実感できる学びの創造  
——基礎学力の向上を図り，学ぶ力を育てる学習指導の工夫——

仮説

(仮説1)

児童の実態を把握し，その実態に応じて指導と評価の一体化を図り，単元構成や児童の学習過程に合った指導過程，学習活動に合った指導形態などを工夫し，指導方法の改善を図れば，基礎・基本の内容が定着し，「わかる・できる」という学びの喜びや楽しさを実感することができるであろう。

(仮説2)

継続的に学びの機会を充実させるために時間割や日課を工夫するなどの教育課程の見直しを図れば，学ぶ習慣が身に付き，基礎学力が向上するであろう。

研究内容・方法

(1) 基礎学力の向上を図るための教育課程の改善

- ・ 教育課程を見直し，朝の活動(ぐんぐんタイム)に音読や読書，計算練習などを位置付ける。また，1単位時間の弾力化，週時程の工夫を行う。
- ・ 補足的な学習を行うために，放課後に時間を確保する。
- ・ 確かな学力を向上させるための指導法や評価などについて学ぶ研修の機会を持つ。
- ・ 無理のない範囲で，教師の得意分野を生かした交換授業や教科担任制を取り入れる。

(2) 個に応じた指導の工夫

- ・ 学習のねらいや内容に応じて，T・T授業や少人数指導・習熟度別学習などの指導形態を工夫する。
- ・ 国語・算数科を中心に，発展的，補足的な学習で生かせる教材を開発する。
- ・ 目標と指導と評価の一体化を図り，「手立て」を明確にする。
- ・ 年間指導計画を見直し，具体の評価規準を設定する。
- ・ 指導に生きる多様な評価方法について検討する。

(3) 学習意欲を高める指導の工夫

- ・ 総合的な学習の時間と関連させ，体験的・問題解決的学習を取り入れる。
- ・ 調べ学習や教科の学習等の中で，情報機器を効果的に活用する。

(4) 学ぶ習慣を身に付けさせるための指導の工夫

- ・ 学年に応じた「学習のきまり」(効果的なノート指導なども含めて)を検討する。
- ・ 学ぶ習慣が身に付くような家庭学習などの充実を図る。

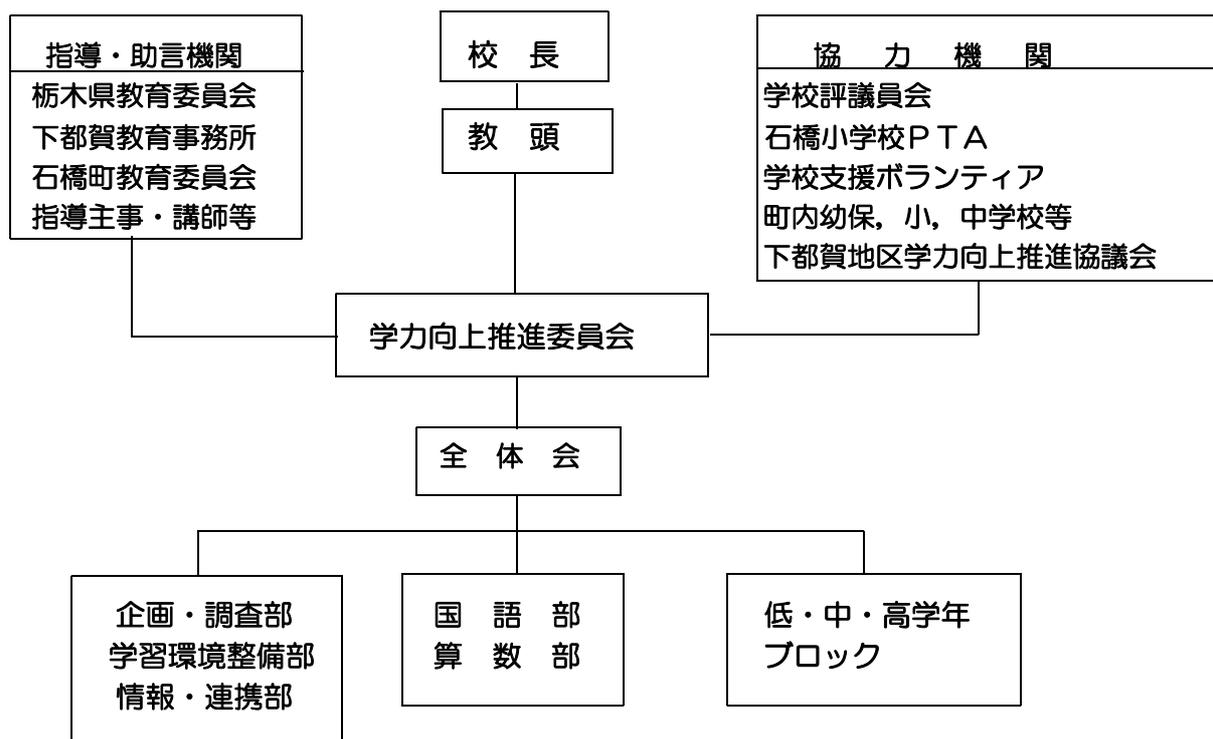
(5) 家庭や地域との連携を図る工夫

- ・ 学校だより，学年だより(ポップ・ステップ・ジャンプコーナー)・フロンティア通信等を活用し連絡を行う。
- ・ アンケートを計画的に実施し，児童や保護者の願いや思いなどを把握し，研究に生かす。

- ・ 授業参観や懇談会を活用しての紹介を行う。
- ・ ホームページで研究や活動の様子を公開する。
- ・ 地域の人材を中心とした外部人材の活用を図る。

平成16年度	<p>テーマ 「わかる・できる」喜びや楽しさを実感できる学びの創造 ——基礎学力の向上を図り、学ぶ力を育てる学習指導の工夫——</p> <p>仮説 (仮説1) 児童の実態を把握し、その実態に応じて指導と評価の一体化を図り、単元構成や児童の学習過程に合った指導過程、学習活動に合った指導形態などを工夫し、指導方法の改善を図れば、基礎・基本の内容が定着し、「わかる・できる」という学びの喜びや楽しさを実感することができるであろう。</p> <p>(仮説2) 継続的に学びの機会を充実させるために時間割や日課を工夫するなどの教育課程の見直しを図れば、学ぶ習慣が身に付き、基礎学力が向上するであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>(1) <b>基礎学力の向上を図るための教育課程の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 二学期制を取り入れ、教育課程を見直し、授業時数を増やし、児童が学習に取り組む時間を十分に確保する。</li> <li>・ 教育課程を見直し、朝の活動(ぐんぐんタイム)に音読や読書、計算練習などを位置付ける。また、1単位時間の弾力化、週時程の工夫を行う。</li> <li>・ 確かな学力を向上させるための指導法や評価などについて学ぶ研修の機会を持つ。</li> <li>・ 教師の得意分野を生かした交換授業や教科担任制を取り入れる。</li> </ul> <p>(2) <b>個に応じた指導の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習のねらいや内容に応じて、T・T授業や少人数指導・習熟度別学習などの指導形態を工夫する。</li> <li>・ 国語・算数科を中心に、発展的な学習や教材や補充的な学習で生かせる教材を開発し活用する。</li> <li>・ 目標と指導と評価の一体化を図り、「手立て」を明確にする。</li> <li>・ 二学期制の導入に伴い、年間指導計画を見直す。</li> <li>・ 指導に生きる多様な評価方法について検討する。</li> </ul> <p>(3) <b>学習意欲を高める指導の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合的な学習の時間と関連させ、体験的・問題解決的学習を取り入れる。</li> <li>・ 各教科、領域の学習等の中で、情報機器を効果的に活用する。</li> </ul> <p>(4) <b>学ぶ習慣を身に付けさせるための指導の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年に応じた「学習のきまり」を徹底する。</li> <li>・ 学ぶ習慣が身に付くような家庭学習などの充実を図る。</li> </ul> <p>(5) <b>家庭や地域との連携を図る工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校だより、学年だより(ポップ・ステップ・ジャンプコーナー)・フロンティア通信等を活用した連絡を行う。</li> <li>・ アンケートを計画的に実施し、児童や保護者、教師の願いや思いなどを把握し、研究に生かす。</li> <li>・ 授業参観や懇談会を活用しての紹介を行う。</li> <li>・ ホームページで研究や活動の様子を公開する。</li> <li>・ 地域の人材を中心とした外部人材の活用を図る。</li> </ul>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の成果及び課題

1 研究の成果

(1) 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発を行うことができた。

- ア 算数科 「数と計算」の領域の1年から6年生までの学習内容を見通したプリントの作成  
「数と計算」の領域の系統図をもとに問題を作成し、プリントを作成した。
- イ 算数科 各学年の発展的、補充的な学習で使うワークシートの作成
- ウ 算数科 指導のポイントを押さえた単元の系統表とレディネステストの作成
- エ 算数科 パソコンで簡単に計算のプリントを作成できる教材データの作成(エクセルを使って)
- オ 算数科 基礎・基本を定着させるための学年に応じたノートの書き方、計算の仕方、  
用具の使い方、算数の用語集の作成
- カ 国語科 各学年の基礎・基本を身に付けるための「国語おたすけブック」の作成  
(原稿用紙の書き方、推敲の仕方、ノートの書き方、音読の仕方など)
- キ 国語科 学習で活用できるプロジェクト教材の作成(パワーポイントを使って)

(2) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善を図ることができた。

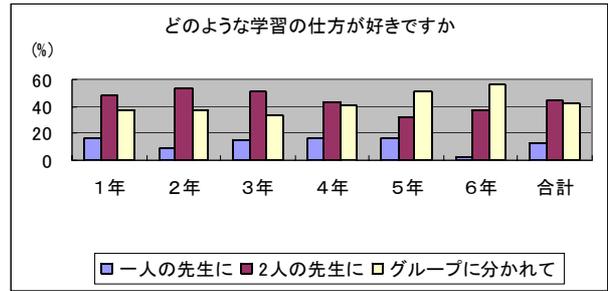
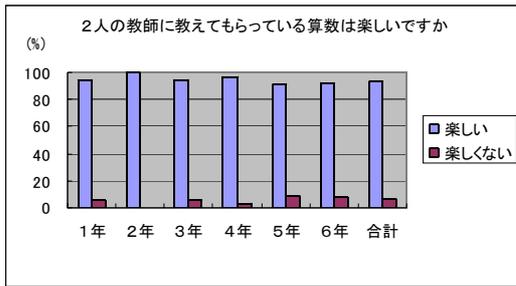
ア 国語、算数での指導形態の工夫

単元の学習内容や本時(1時間)の学習内容により様々な学習形態が考えられる。児童一人一人に応じたよりきめ細かな指導を行うために、算数では全学年全クラスにT・Tで授業を行っているが、その他の学習形態についても研究をしている。また、今年度は国語でもT・Tや少人数指導の授業を取り入れることができた。児童一人一人の学びの実態をとらえ、個に応じた指導方法や指導体制を工夫・改善することによって、基礎的・基本的内容の確実な定着と、児童一人一人の個性の伸長を図ることをねらっている。

少人数指導(習熟度別学習)については、次のように実践している。

1クラスを2~3グループに分割 学年3クラスを4グループに分割 など

児童へのアンケートの結果、T・Tでの授業や少人数での学習をととても楽しみにしている児童が多いことが分かった。



### イ 交換授業や教科担任制の工夫とT・T教員との連携

中・高学年で無理のない範囲で時間割を工夫し、教師の得意分野を生かした交換授業や教科担任制を実施している。

また、算数では全学年全クラス、国語（書写）では1年生がT・Tで授業を行っている。そこで、担任とT・T教員がうまく連携を図り、授業が展開できるように各学年とも「打合せ」の時間を週1時間位置づけている。

## (3) 児童生徒の学力の評価を生かした指導の改善を図ることができた。

### ア 評価計画の作成と見直し

学習指導要領に基づいた使いやすい指導計画を作成した。次に、指導と評価の一体化を図るために、指導計画のなかに評価計画を盛り込んだ。「評価のための評価」に陥ることのないよう、無理のない実践可能な評価計画を作成するように配慮した。指導を行った後に修正や加筆を加え、更に見直して改善を図っている。

### イ 評価方法の工夫

#### (ア) 単位時間の評価について

1単位時間という限られた中で、確かな評価をしていくために、次のようなことに気を付けていくことにした。どのように評価していくか、教科の特質に応じて検討し工夫した。

評価の観点を重点化する（目標と指導と評価の一体化を図る）  
 複数の目で評価する（学級担任やT・T教員などとの情報交換を密に）  
 評価する対象を重点化する  
 評価の時期を工夫する

#### (イ) 単元の評価について

1単位時間の評価を単元を通して、どのように活用していったらよいか検討した。

単元の目標、評価規準、1単位時間の具体的評価規準を明確にし、単元の指導計画を作成する。

単元の目標、評価規準を基に、毎時間の評価情報から、児童の学習状況が的確に把握できるような記録を残す。（評価チェックリストの活用を図る。）

このような点に気を付けて、指導計画を立てたり、指導に役立つ評価情報を蓄積させるために、評価チェックリスト（評価補助簿）を工夫することにした。

#### (ウ) 自己評価、相互評価の工夫

「振り返りカード」を活用し、自己評価や相互評価を行い、児童が学習を振り返り成果を知るとともに、目的意識を持って学習に取り組めるようにする。また、教師は児童のつまづきなどを把握し、個に応じた指導に役立てている。

#### (エ) 評価情報の蓄積について

毎時間の評価情報は、まずは記録として残すが、次の段階では評価計画に従ってより精選されたものを記録として残すことにした。

記録された評価情報は、補充的な学習や発展的な学習に生かされたり、単元の総括評価に活用されている。

本校では、評価情報を集約し、指導や評定に活用することができるように、「評価チェックリスト」（評価補助簿）を活用することができた。



**(エ) ホームページの公開**

保護者をはじめ広く地域の方々にも、理解や協力を得られるように、ホームページを作成し、本校の取組等を公開することができた。

**エ 情報機器を効果的に活用を図る工夫**

文部科学省指定のマルチメディア学校間連携推進事業（学校インターネット）の推進とのかかわりも図り、学習への興味関心を高めたり、伝え合う力を育てたりする手だての一つとして、教科の学習の中で、情報機器の効果的な活用を図ることができた。

特に国語科においてテレビ会議を実施し、相手を意識して、自分の考えや意見を交換し合うことができた。その他、プロジェクタ教材の活用や算数科においてのパソコンの活用なども図ることができた。

**オ 実態調査、意識調査の実施**

児童への意識調査や実態調査を、国語、算数部の計画に基づき計画的に実施し、指導改善に役立てている。

国語 5月、1月に「漢字の読み、書き、音読」についての実態調査を実施

12月に意識調査を実施

2月に「漢字の読み、書き、音読」についての実態調査を実施予定

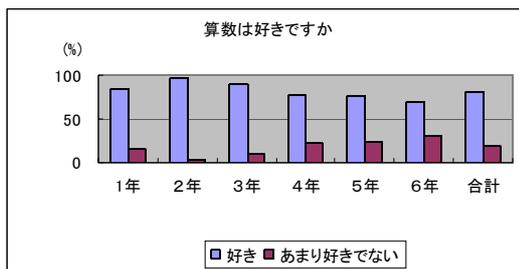
算数 5月、1月に「計算」についての実態調査を実施

12月に意識調査を実施

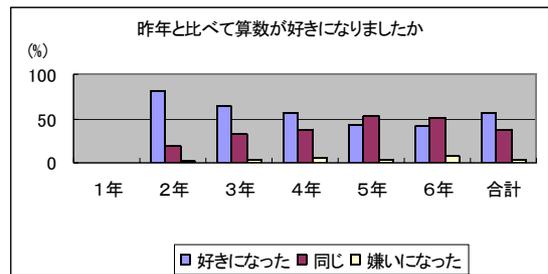
その他、各学期ごとに漢字、計算テストを実施し、実態把握と指導に努めている。

(12月に実施した意識調査から)

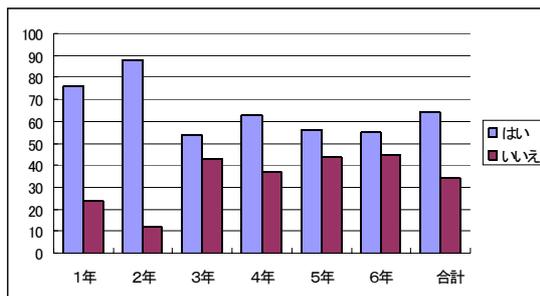
算数は好きですか



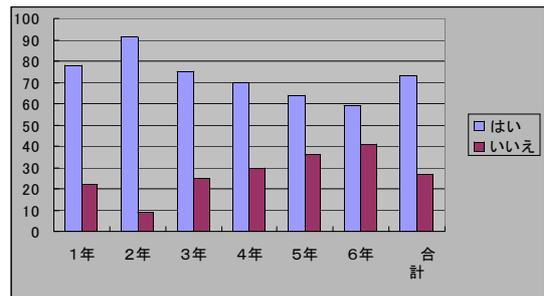
昨年と比べて算数は好きになりましたか



国語は好きですか (H15年5月)



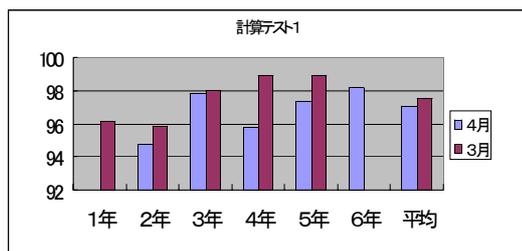
国語は好きですか (H15年12月)



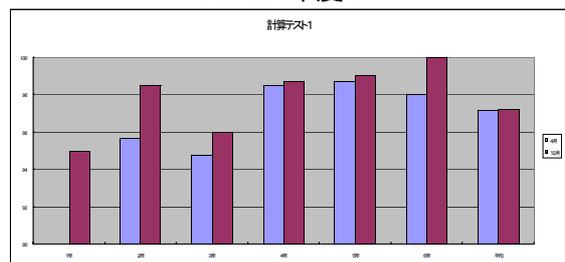
意識調査の結果から、国語好き、算数好きの児童が増えていることが分かる。

(1月に実施した計算についての実態調査から)

H14年度



H15年度



平成14年度から計算の実態調査を年に2回実施し、一人一人のつまづきを見つけ、個に

応じた指導を行ってきた。これらの取組の成果が実態調査からも分かる。

## 力 研修の充実を図ることができた。

### (ア) 授業研究会、実践レポート報告会の実施

国語や算数の研究授業（17クラス）を実施し、実践を通して、基礎学力を向上させ、個に応じた指導をするためにはどうしたらよいかを考え、授業の改善が図れるように話し合った。その結果目標と指導と評価の一体化を図り、個に応じた手立てを明確にし、評価を指導の中に生かしていこうとする意識が強くなった。また、自分の日々の授業を見直すようになり、授業を工夫したり、導入の仕方、ヒントカードや学習プリントの与え方、体験的な操作活動のさせ方、評価方法などを工夫したり、個に応じた指導を心掛けたりするようになってきた。

また、各教師が、国語好き、算数好きな子を育てるための工夫をした実践例をレポートにまとめ随時紹介し合い、授業改善に役立てることができた。

### (イ) 研修会の実施

研修を実施し教師の意識改革を図っている。基礎学力の向上にかかわる評価、指導法などの講話をいただき研修を行った。

## 2 今後の課題

- (1) 国語、算数科を中心に更に基礎学力の向上を図りながら、「わかる・できる」喜びや楽しさが実感でき、「国語好き」「算数好き」な児童が更に増えるように研究を進める。

特に目標と指導と評価との一体化を図るために、評価計画や評価方法などを見直し、確かな評価ができるように研究していきたい。

- (2) 国語では相手意識や目的意識を大事にした活動を工夫してきたことにより、読み手や聞き手に分かりやすく伝えようとする気持ちが育ちつつある。更に「伝え合う力」を育てるために、今年度同様「話すこと・聞くこと」「書くこと」を中心に研究に取り組んでいく。

- (3) 算数では今後も問題解決学習を取り入れていく。課題の提示と場の設定の工夫や算数的活動の工夫を通して、意欲的に問題解決に取り組む児童が増えてきたし、算数的な表現力でも、自分の問題解決過程を自分なりの方法でまとめられるようになってきた児童が増えてきた。そこで、「深め合う」活動では、児童から出された多様な考え方をどのように生かしながら学び合いをさせていくと効果的でありより学習が深まるかを更に研究をしていく。

- (4) 評価を見直し、補充的な学習や発展的な学習を検討していく。

- (5) 情報公開を通し地域や保護者への理解を求める。

「学力向上フロンティア」の研究や取組について、保護者や地域の方々と互いに情報交換できる場を多く設定し、連携を図っていきたい。

- (6) 基礎学力の向上を更に図れるように、教科担任制が効果的に取り入れられるような時間割や日課などを工夫して、教育課程の改善を更に図る。

- (7) 個に応じたきめ細かな指導をより一層図れるように、更に授業形態の工夫をしていく。

- (8) 情報機器の効果的な活用を図る

今年度まで、文部科学省指定のマルチメディア学校間連携推進事業推進校として取り組んできたが、これまでの研究を生かし、今後も教科・領域の学習の中で学力向上を図る手段として情報機器を効果的に活用していく。

## 学力把握のための学校の取組について

国語（小学校で学習する漢字の読み書き、音読について）と算数（計算について）の実態調査

…年2回5月、12月に実施

漢字・計算テスト…年3回（7月、12月、3月）に実施

学力テスト…年1回2月に国語と算数で実施

町内の小学6年生対象の学力診断テスト…年1回5月に国語と算数で実施

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

授業研究会（公開）の実施

- ・平成15年6月23日
- ・平成15年11月27日  
対象 普及地区（石橋町，壬生町，国分寺町，都賀町）の小学校，下都賀地区の中学校  
学力向上推進委員会への参加
- ・平成15年12月9日 下都賀地区学力向上推進委員会 場所：下都賀庁舎  
対象 下都賀地区フロンティアティーチャー
- ・平成15年12月12日 学力フロンティア事業研究協議会 場所：とちぎ青少年センター  
対象 県内フロンティアティーチャー

来年度の予定

- ・平成16年12月予定 研究発表会
- ・平成17年1月予定 石橋町教育会研究発表会

研究成果普及のためのHP作成

- ・HP公開 <http://www.ishibashi-e.tochigi.schoolnet.gr.jp/ishisho>  
(ただし，H16年3月上旬にURLを変更する予定)

研究成果普及活動の成果

- ・幼保小の連携・・・幼稚園や保育園にも年間6回授業を公開し，理解を得ることができた。
- ・町内小中学校への授業公開と研究紀要の配布・・・町内の小・中学校へは校内研究会をすべて公開したり研究紀要を配布したりして，研究の普及に努めている。

【新規校・継続校】

15年度からの新規校

14年からの継続校

【学校規模】

6学級以下

7～12学級

13～18学級

19～24学級

25学級以上

【指導体制】

少人数指導

T・Tによる指導

一部教科担任制

その他

【研究教科】

国語

算数

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有

無